

第2研究部

令和8年度 研究主題

幼稚園教育と小学校教育とのつながりを考える

17園で共同研究しています！

今里 東小橋 北中道 東中本 旭東 榎本 愛珠 銅座 玉造
中大江 桃園 南 九条 鞆 日吉 日東 立葉

6月研究部会 令和8年6月18日（水）今里幼稚園

東成区 今里幼稚園の研究保育に参加し、研究討議を行いました。小学校の先生方にも参加していただき、一緒に討議会を行いました。

学びにつながる幼児の姿から、どのような学びが育まれているのかを読みとり、幼稚園教育での学びが小学校教育につながることを、小学校の先生と共有しました。

〔研究討議の視点〕

視点① 学びにつながる幼児の姿はどのようなものか

視点② その中でどのような学びが育まれようとしているか
(幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手がかりに考える)

砂場で山やプールをつくる

視点① 〈学びにつながる姿〉

- ・泥、砂、水、泡に触れて遊び続けている
- ・友達と火山という共通のイメージをもって砂で山をつくっている
- ・再度火山をつくらうと、砂を盛ったり固めたりなど、繰り返している
- ・火山の中にホースを入れて隠したり、ホースから水が出る様子を見たりしている
- ・異年齢の友達と関わり、したいことを伝えたり、分担したりしている



視点② 〈どのような学びが育まれようとしているか〉

- ・泥、砂、水、泡の性質の違いに気付いたり、感触や心地よさを味わったりする **自然との関わり・生命尊重**
- ・何度も水をくみに行ったり、流す水の量を加減したりする中で、体の使い方や力の入れ具合などを調整する **健康な心と体**
- ・友達と話をしながら、砂山を火山に見立て、イメージを共有する **社会生活との関わり** **言葉による伝え合い** **豊かな感性と表現**
- ・繰り返し遊ぶ中で不思議さを感じたり、試行錯誤して原因を考えたりする **思考力の芽生え**
- ・チューブを使うと地面に水が染みこまず、溜まりやすいという性質に気付く **自然との関わり** **生命尊重**
- ・水を運ぶ、山をつくる、崩れた山を直すなど、役割を決めて遊ぶ **自立心・協同性**
- ・水をくむ順番を待ったり、譲り合ったりする **道徳性・規範意識の芽生え**
- ・自分なりの言葉で楽しかったことや考えたことを伝える **言葉による伝え合い**

絵をかいたり、消したりする

視点① 〈学びにつながる姿〉

- ・友達と一緒に、透明シートに絵をかいて消すことを繰り返している
- ・繰り返し、水鉄砲を使って、紫色の絵の具だけを消し、その下にボウルを置いて垂れてきた紫色の水を溜めている
- ・絵のかいたところに水鉄砲で水を当て、垂れてきた水で混色をつくっている
- ・垂れてきた色水を溜めて、イメージをふくらませてジュースをつくっている
- ・片付けの時に「4人で運ぼう」と言いながらカラーボックスを運んでいる



視点② 〈どのような学びが育まれようとしているか〉

- ・絵をかく、かいた絵を消すと役割を決めて遊ぶ **自立心** **協同性**
- ・水鉄砲に水を溜めるときに、自分なりに工夫し、何度も決めた色を消すことを試す中で、水の流れ方やたまり方に気付く **思考力の芽生え**
- ・水鉄砲の水、絵の具の色水がどこに落ちてくるのか予想しながらボウルを置く **思考力の芽生え**
- ・自分なりに考えたり、工夫したりして、ピンク色と水色の水から紫色をつくる **思考力の芽生え** **豊かな感性と表現**
- ・イチゴチョコやオレンジジュースなど生活経験からイメージをふくらませて遊ぶ **社会生活との関わり** **豊かな感性と表現**
- ・友達と協力したり、数への感覚を取り入れたりして片付けている **協同性** **道徳性・規範意識の芽生え** **数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚**

樋を使って転がし遊びをする

視点① 〈学びにつながる姿〉

- ・いろいろな形のものを転がし、転がる様子を見ている
- ・樋の高さや置き方を工夫している
- ・水をたくさん流して、ボールが勢いよく流れるようにしている
- ・流した瞬間に樋に沿って走ったり、下から覗いたり、片目を閉じて見たりしている
- ・樋を丁寧に扱っている

視点② 〈どのような学びが育まれようとしているか〉

- ・形の違いによって転がり方が違うことに気付く **思考力の芽生え** **数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚**
- ・水の量や転がすものによって流れる速さや転がる速さが違うことに不思議さを感じる **思考力の芽生え**
- ・樋の角度による流れ方や転がり方の違いに気付く **数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚**
- ・樋の性質に気付き、つなぎ方や角度を工夫する **思考力の芽生え**
- ・思いを実現させたいという気持ちを持ち、自分のやりたいことに向かって、試したり、工夫したりする **健康な心と体**
- ・日々の遊びの経験から、樋の安全な運び方や正しい使い方、遊び方に気付く **道徳性・規範意識の芽生え**



色水遊びをする

視点① 〈学びにつながる姿〉

- ・ジュースの色が濃くなるように何度も同じ色のペンで色をつけた紙を水の中に入れていく
- ・緑色のジュースと紫色のジュースを混ぜて、何度もジュースをつくっている
- ・スポイトで少しずつ色水を足して、色や濃さや変化の様子を見ている
- ・遊具や用具を選んで使っている

視点② 〈どのような学びが育まれようとしているか〉

- ・ペンで色を付ける際に、どのような水の色になるか予想し、濃くなるように何度も試したり、工夫したりする **思考力の芽生え**
- ・色が変化することへの期待や見通しをもちながら試行錯誤を繰り返す **思考力の芽生え**



- ・透明な水が色付いていく様子に驚く **豊かな感性と表現**
- ・知っていることや経験したことを生かし、キューブを氷に見立てたり、気に入った容器に色水を入れたりしてジュースをつくる **社会生活との関わり**
- 水の量を調整したり、こぼさないように注いだりする **健康な心と体** **数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚**

小学校の先生方より

- ・砂山が水の勢いで崩れる遊びを存分に楽しんでいた。この中での学びは、4年生の理科の川の学習や、6年生の川の流れによって砂や石がどのように積もっていくのかという学習につながる。
- ・小学校以降の学習において、「知的好奇心を育てること」が最重要である。そのためには、幼稚園教育の中で、気付き、疑問をもち、工夫をして試すという経験をたくさん積んでおくことが大切である。
- ・「友達からの刺激」「変化への気付き」「疑問」「試す」「考えを伝え合う」「繰り返し試す」という幼稚園教育の中での活動が、小学校教育の問題解決の学習過程の「疑問→予想→考える→試す→まとめる」というサイクルと一緒であると感じた。
- ・幼稚園で行う活動後の振り返りで、友達と互いの遊びを共有し、教え合っていた。振り返る中で、人との関わりが増え、いろいろなことに気付くきっかけになる。
- ・幼稚園の「予想する→試す、比べる→振り返る」といった経験は、小学校の「めあて→見通し→考える→まとめ」の学習活動の基礎となっている。活動後の振り返りが大切である。・答えが出ない社会生活において、自分で課題を設定して自分なりの答えを導き出していく力が必要とされる。そのことが、自分のやりがい、生きがいを見つけていくことにつながる。その力の土台を幼稚園教育で大切にされていることを感じた。

指導講評

大阪市教育委員会事務局 初等部 初等・中学校教育担当 総括指導主事

○「何ができるか」より「どう学ぶか」

- ・入学当初は、学校探検をしたり、他の学年の学習の様子を見たりと、実際に見たり、触れたりしながら学んだり、興味をもったりする気持ちを大切にしながら学習を進めている。幼児期に経験してきた遊びの中での学び方を生かしながら、少しずつ教科の学習につないでいくことを大切にしている。幼稚園で思いっきり遊び込んだという経験が、小学校生活でスタートを切るエネルギーそのものになっている。学び方が急に変わるのではなく幼稚園で育まれてきた学びの姿が小学校での学びの土台になっている。
- ・幼児期に育ってほしい姿にも示されているように、何かができるようになった結果ではなく、どんな風に学んでいるか見取ることが大切である。試し続けた姿、やり直そうとした姿など、プロセスそのものに大切な学びがあることを大切にしてほしい。

○「立ち止まっている時間」を大切にする

- ・すぐに答えを教えることは簡単だが、それでは子どもの試行錯誤と大発見のチャンスを奪ってしまう。子どもの思いや考えを丁寧に見取りながら、子ども自身が気付くのを信じて待つことが大切である。
- ・手が止まっているのは何もしてないのではなく、頭の中でしっかり考えている。止まっていように見えても頭の中がフル回転しているのではないかとということを、念頭において言葉かけをするとよい。

○小学校教育につなげる

- ・幼児の学びを、小学校教育どの教科につながるのか、10の姿にどのようにつながるのかに重点において捉えるのではなく、子どもたちが何に心を動かし、何を面白がっているのか、その中で何を学んでいるのか、子どもたちの姿を丁寧に読みとることが大切である。小学校へとつなげるときには、幼児の姿や学びを具体的な言葉で記録し、伝わりやすくする工夫が必要である。
- ・幼稚園は環境や空間を通して学ぶ。小学校は時間や学習課題を通して学ぶ。アプローチは違うが真ん中に居るのは同じ子どもであり、幼稚園で育まれている学びは、小学校で突然始まるものではなく、既に今日ここで育ち続けている。

学んだこと

- ・子どもたちは遊びの中で、考える、人と関わる、自分なりに工夫するなどのことを学んでいる。子どもたちの姿の一瞬一瞬が学びにつながっていた。
- ・遊びが深まると、幼児の気付きも伝えたいことも充実してくる。幼児期にしっかりと遊び込むことと、遊びを重ねることが、深い学びとなっていくことを改めて実感した。
- ・幼児期の学びは無自覚の学びである。教師がこの先の学びを予想しながら種を蒔いておくことで、小学校の授業で経験と結び付き、生きた知識として子どもの中に残っていくことを学んだ。